

氏名 江 源

学位の種類 博士（応用言語学）

学位記番号 応甲第 23 号

学位授与日 平成 23 年 3 月 23 日

学位授与の要件 明海大学学位規程第 11 条第 1 項

学位論文題目： 言語景観の形成過程に関する社会言語学的研究

論文審査委員 主査 明海大学 教授 井上 史雄

副査 明海大学 教授 原口 庄輔

副査 明海大学 教授 山下 暁美

副査 首都大学東京 教授 ダニエル ロング

審査結果の要旨

本論文は、日本および中国の街頭の看板の国際化について、現地で撮影した大量データをもとに、対照研究を試みたものである。看板に使用される言語、文字、表記法などを手掛かりに、データを数量化し、各種グラフを作成し、また多変量解析法の一つであるコレスポンデンス分析を適用することにより、言語使用の日中の違いとともに、地区の性格の違いを明確にしている。

景観言語学は最近盛んになったが、限られた地域の個別的な事例研究が多く、異なった国家・言語の対照研究は少ない。また理論的な視野も欠けている。本論文は二つの点で従来の研究水準を超える。まず日本のみならず中国・香港でも調査して国際比較を試みたこと、次に大量データを収集して多変量解析法によって全体的な分析に成功したことである。

日本での英語をはじめとする外国語看板の使用は知られていたが、調査の結果中国でも最近では単言語使用から多言語使用に向かっていることが読み取れた。さらに最近では、英語使用に典型的にみられる欧米志向以外にアジア諸言語の使用にみられるアジア志向の流れも読み取れた。手法として、過去の景観写真と対比し、また日本国内の過去の調査データとの対比したことが有効である。

論文の構成としては、4部分に分かれる。①第1章では研究の位置づけと研究史で、計量的景観言語学の先駆といえる、日本の地理学者正井以降の研究成果を振り返る。②第2、3章では研究概要を述べ、調査結果全体に多変量解析を適用した結果を論じる。また三角グラフ triangram によって全体を図化して、通時的変化過程の中に現在の各地の数値を位置付けている。看板の文字や言語を業種や地域の性格と結びつけて、本国志向・折衷志向・欧米志向の3典型に分ける。③第4、5章で日本と中国の言語景観を各論として詳しく記述している。言語と文字に順序指数を与えて、平均値を計算し、多言語指数と多文字指数によって、各地区を位置付けている。両国ともに地域の業種構成によって多言語表示の割合が大きく違うことが分かった。また過去の景観データと対比することにより、いずれの地域でも多言語化に向かうことが読み取れた。東京でも大阪でも上海でも香港でも、若者が主な購買層であるファッション産業の集まる地域では、欧米化が進む。また海外からの顧客の多い電気街などでは、近接地域アジアの言語・文字が使われる。多量の看板を総体としてとらえると、需要に応じて看板が供給されると見なしうる。④最後に第6章で方法論や定義などの理論的な問題を論じている。

本論文は、私的な商業看板に着目したもので、自治体などによる公的な表示では異なった形の多言語化がみられる。この点の分析が将来の課題である。また看板の経済的メカニズム、ことに需要と供給の関係、業種と客層による違いの分析など、先行研究でも見逃されていた視点は、将来明らかにされるであろう。論文の論述方法などに、改善の余地はあるものの、当該分野の博士論文として高い水準に達していると認められる。最終試験のプレゼンテーションも要領よく、発表後の質疑応答も妥当であった。

以上の結果、江源氏は博士(応用言語学)の学位を授与される資格が十分であると認める。